
N girls - 生首の女達 -

マエカワ ユウキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

N g i r l s - 生首の女達 -

【Nコード】

N 0 9 6 6 L

【作者名】

マエカワ ユウキ

【あらすじ】

体を失った女妖怪たちが自分の体を取り戻すために繰り広げるバトルアクション。

ブローグ

どこかの国にある世界遺産に登録された古の闘技場、そこには一人を対象に一つだけ願いを叶えてくれるという伝説がある。しかし願いを叶えるためにはこの闘技場で、同じ境遇におかれた者が戦い勝ち残る必要がある。

勝つのは一人だけ、叶う願いも一つだけ。しかも対象が複数人の願いではだめ、自分自身か他の一人だけに対する願いじゃないとダメなのだ。

私もある願いを叶えたくてこの闘技場にやってきた。私の名はデリコ、人間ではなくデュラハンと呼ばれる妖精だ。本来デュラハンは自分の頭部を抱えた姿で死が近い人のもとに現れ死期告げるのが常識なのだが、私は訳あって首から下の胴体がない。まあ木端微塵に破壊されたとも言っておこう。

私の願いは自分の体を取り戻す事。ここに集まった他の奴らもみんな私と同じ願いを持っているだろう。

どうせだからここにいる奴らを紹介しよう。

まず最初に一番目立つ彼女から紹介しよう。彼女の名は夜月女^{やづめ}、頭の高さが5mにもなる面女と呼ばれる巨大な妖怪だ。

生前に冤罪で首を切られて処刑され、体は燃やされ焼失、死後燃やされず晒し首にされた頭部に彼女の怨念と魂が乗り移り妖怪化した。

次に舞首を紹介しよう。彼女は、いや彼女たちは3つの頭部が融合した姿をしている。生前3人で喧嘩をしていたところ、互いが互いの首をはね死亡した。その後体は海に沈み、首は融合して今でも喧嘩をしている。

もし彼女らがこの闘技場で勝ち残ったとしても、一人を対象に一

人の願いしか叶えられないこの状況で彼女らがもめにもめることが予想できる。

因みに彼女らの名前は右から桜子、凧、雪である。

次は抜け首の秋子、彼女はかの有名な妖怪ろくろ首の一種とされる抜け首と呼ばれる妖怪だ。だが彼女はその中でも特別で他の抜け首と違い、首が抜けるだけでなく首を伸ばす事が可能で、しかも何故か顔がないのだ。

体を失った理由は夜道で武士を脅かした時、武士に腹を切られ首だけで逃げ出したからだそう。

次はポンティアナのワルツを紹介する、ポンティアナとは普段は女性の姿をし、夜になると体から抜け出し頭部と内臓だけで空を飛びまわり獲物を襲う吸血鬼だ。

彼女が食事を終えて体に戻ろうと帰宅したら体が何者かによって燃やされていたそう。

因みに彼女は自分の体に頭部が結合していない状態で日光に当たると焼け死んでしまう。

次は飛頭蛮の迷、彼女も夜になると体を抜けだし羽のような耳を使い空を飛びまわり獲物を探す、主に虫を食べて生きており、彼女もまた日光に弱い。

彼女が食事を終えて帰宅すると体が盗まれており、翌日狂料理人による犯行だとわかったがその時にはもう体は狂料理人によって調理されていたそう。マジ怖い。

次はメドウサ、彼女の髪は蛇になっていてすごく蠢いている。そして彼女の目を直視した者は石化してしまう。

昔とある国の兵士に退治され体は焼失、頭部も晒し者にされたが何とか逃げ出して今に至る。

最後に鬼女の陀睡羅^{ただら}を紹介する。彼女もまた昔一国の兵士達によつて退治されて体を失ったが、頭部だけになった今でも彼女の力は凄まじく、額から生えた一本角で巨大な岩石も木端微塵に砕く事が出来るらしい。

やがて日が落ち、体を失った8人が集った闘技場に月がのぼり始めた。

8人は闘技場の中央に集まり闘技を開始する儀式を始めた。儀式は闘技場の中央に設けられた祭壇に置かれた杯に闘技に参加する者の血を注ぎ行われる。8人は自らの血を杯に注ぎ儀式を終えた。

儀式を終え今から闘技の対戦のカードを決める。個人トーナメント方式で一日一試合で7日間に渡って行われる闘技の行く末を占う大事な場面だ。8人はあらかじめ作ったくじを引き対戦相手を決める事にした。その後8人はそれぞれくじを引いた。

私が引いたのは4番。同じ番号を引いた者同士が戦う事になるのだが、さて私と戦うのは誰になるのだろうか：

「4番だワシと第4試合で戦うのはどいつだ？」。ダラダラとした口調でそう言ったのは舞い首だった。

私は自分が4番だと名乗り出た。すると舞い首は3つの顔をニヤつかせた。他の奴らと違って見た目にインパクトのない私をなめているのだろうか？だとしたらそれはそれでありがたい。油断してもらう分にはこつちが有利になるのだから。

その後続々と対戦相手が決まっていく。そんな中いつの間にか私たち8人以外に闘技場に立つものが居た。私が黒いフードを被ったそいつの存在に気付くとそいつは笑顔で会釈をした。そしてそいつは8人を見渡して口を開いた。

「お集まりの皆様、私はこの闘技場の管理および守護を任された者です。これから儀式を行った者達の闘技を仕切らせていただきます」

。そういつとそいつは笑顔でお辞儀をした。私たちがいきなり現れたそいつに若干不信感を抱いていると、そいつは儀式に用いた祭壇を片づけ闘技場の中央に立ち再度8人を見渡した。

管理人：「では早速第一試合を始めたいと思います」。こうして戦いの幕は切って落とされた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0966l/>

N girls - 生首の女達 -

2010年10月9日04時52分発行